

大図書館の羊飼!

a good librarian like a good shepherd



オーガストオフィシャルハンドブック
2012年新春号



P R E F A C E — ま え が き

こんにちは、オーガストです。
初めての方、はじめまして。
何度目かの皆様、いつもご愛顧頂きありがとうございます。

さて半ば実験的にはありますが、今年発売したソフトから「オンラインユーザー登録」ができるようになりました。オフィシャルウェブサイトの「ユーザー登録」ページから登録できます。ソフトをお買い上げ頂いた方で、まだユーザー登録をされていない方がいらっしゃいましたら、この機会に登録をご検討下さい。(2011年現在、白封筒にて年賀状や暑中見舞い等を送らせて頂いております)

※登録の際には、ソフト本体に同梱している「ユーザー登録葉書」または「保証書」に記載してある「プロダクトID」が必要となります。中古ショップでお買い上げ頂いたソフト中の葉書に記載されている「プロダクトID」は、既に登録に使用されている場合があります。その際にはご登録頂けませんのでご了承下さい。

それでは、多少のお時間を拝借致しますが、オフィシャルハンドブックをお楽しみ下さい。

2011年末 オーガスト/ARIA 拝

CONTENTS

- 3 …… オーガスト最新作「大図書館の羊飼」情報
- 10 …… 「機翼のユースティア」Short Story
金の鎖と赤い糸
- 14 …… スタッフ対談
- 15 …… あとがき



大図書館の羊飼!

a good librarian like a good shepherd



オーガスト最新作 寄り道だらけの学園恋愛ADV

from STAFF

こんにちは、オーガストです。鋭意開発中の最新作「大図書館の羊飼!」の続報をお送り致します。前回小冊子での初公開以来、久しぶりの学園物ということでご期待の声を多数お寄せ頂いております。ご期待にお応えできますよう、これまで以上に綿密な造形と描写にこだわっていきたくと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

なお今回はメインヒロイン5名の紹介となりますが、まだまだ未公開のキャラクターたちが控えております。また次の機会などにお披露目できればと思います。

Shirasaki Tsugumi

白崎つぐみ

● PERSONAL DATA ●

誕生日:3月29日(牡羊座) 血液型:O型

身長:156.4cm 86D/59/87

所属:2年R組 住んでいるところ:弥生寮C棟

よく読む本:料理のレシピ本、外国のキレイな風景の写真集

キングオブ草食動物

図書部の中心的存在として、学園をより楽しくするための活動に勤しんでいます。人を引っ張っていくタイプではありませんが、その一生懸命さで周囲を手伝う気にさせてしまうあたり、深く静かなリーダーシップを持っていると言えるでしょう。性格は穏やかで、見ている方が自分の汚れに身もだえるほどに素直。少し頑固なところが玉に瑕ですが、口を尖らせたりとわかりやすいリアクションを取るため、メンバーからはよくいじられています。家事が得意で、特に料理については、経済性と味を両立できる腕前。スタイルはモデル並ながら、本人にとってはむしろコンプレックスで、指摘されると顔を真っ赤にして恥ずかしがります。

from STAFF 気が弱いのにやりたいことはしっかり持っていて、根っから善良。周りにわらわら人が集まります。

Sakudaba Tamamo

桜庭玉藻

● PERSONAL DATA ●

誕生日:11月1日(蠍座) 血液型:A型

身長:161.7 85C/56/83

所属:2年R組 住んでいるところ:敷地外のマンション(セントラルレジデンス汐美)

よく読む本:たまに歴史小説、たまに賞を取った本

苦勞性のお姫様

図書部の実質的な進行役で、メンバーが豪快に脱線させた話を本題に戻るのが彼女の仕事です。無駄を好まないこともあります。白崎をサポートしたいという思いが桜庭を動かしています。性格は真面目で自分に厳しい努力家。それでいて、恋愛話や冗談にも対応できることから、男女問わず人気があります。実家が江戸時代の藩主の家柄で、地元では姫と呼ばれていました。姫の名に恥じず、身のこなしは極めて端正。茶道や華道など日本伝統の習いに通じています。ちなみに、くしゃみの音がびっくりするほど可愛いと白崎が証言しています。

from STAFF 図書部を仕切りますが、本質は白崎の保護者かもしれません。彼女を守るためなら全ての敵と戦います。

Misono Senri

御園千莉

● PERSONAL DATA ●

誕生日:1月23日(水瓶座) 血液型:AB型

身長:154.3cm 81C/55/80

所属:1年C組 住んでいるところ:神無月寮A棟

よく読む本:パズルの本



割と隙の多い猫

一見するとクールでドライな後輩ですが、中身は割といたづら好きです。親しくなった人相手には、ちょこちょこ指で突ついたり、袖をつまんだりといった控えめなスキンシップを取ること。なんだかんだ言いながらも部活には参加し、表情からはわかりにくいですが毎日を楽しんでいます。

歌唱に関しては日本トップレベル。学園では声楽を専攻しています。喉を大切にしており、辛いものなど刺激物は食べません。部室では、よく趣味のクロスワードパズルに没頭していますが、得意かと言えばそうでもなく、京太郎(主人公)や桜庭に答えを指摘されてむっとなっています。

from STAFF ポーカーフェイスの彼女ですが、内面はかなり印象が異なります。どうぞお楽しみに。

Suzuki Kana

鈴木佳奈

● PERSONAL DATA ●

誕生日:6月16日(双子座) 血液型:B型

身長:148.0 78B/54/79

所属:1年M組 住んでいるところ:弥生寮G棟

よく読む本:ノンフィクションなら何でも、工場写真集



フリーダムな忠犬



明るく人見知りしない性格で、初対面の人にも積極的に話しかける強い心臓の持ち主です。友人相手には、遠くから手を振りながら駆け寄って来るような親しみを見せる一方で、年上には丁寧語を使うため、馴れ馴れしさはありません。どれだけいじられてもめげることなく、いつも部室の雰囲気明るくしています。まさに図書部のムードメーカー的存在です。何か感激すると勝手に世界遺産認定する癖があり、図書部での世界遺産認定第一号は白崎の並外れた素直さでした。ファッション雑誌の街角スナップに登場するほど容姿は整っていますが、本人は着ていた服が良かっただけと言っています。意外と読書家で、京太郎(主人公)とはよく共通の本について議論をしています。

from STAFF 直感的な頭の冴えも持ち合わせています。肉をこよなく愛するのは成長させたいから。

Kodachi Nagi

小太刀凧

● PERSONAL DATA ●

誕生日:12月31日(山羊座) 血液型:A型

身長:152.1cm 88E/56/82

所属:2年Y組 住んでいるところ:敷地外の主人公と同じマンション(西山手ハイツ)

よく読む本:漫画、ごくたまにベストセラー



思わせぶりな隣人



京太郎の隣人で、ときどき部屋を訪れてはお菓子を食ったりテレビを見たりと、思わず誤解したくなる行動を取って京太郎を困惑させます。人の部屋には来るくせに、自分の部屋についてはガードが堅く、「女の子の部屋はイチゴ味の秘密がいっぱい☆」などと言って決して中を見せようとしません。

性格はつかみ所のない気分屋です。それでいて、ときどき冷静な発言をして京太郎を感心させます。

物怖じしないタイプかと思いきや、動物全般が苦手でチワワに怯える一面も。

図書部には非所属ですが、なぜか部室の近くで頻繁に遭遇します。

from STAFF 図書部にも協力的だったり敵対したり。唯我独尊に好き勝手に動いているように見えますが果たして。

大図書館の羊飼

a good librarian like a good shepherd

シナリオ・榊原拓 他 / 原画・べっかんこう

「汐美学園を、もっともっと楽しくしませんか？」

何か悪いものでも食べたのか、彼女——白崎つくみは言った。

前振りがあったわけでもない。それ以前に、彼女と知り合いだったわけでもない。

唐突に、白崎は言ったのだ。

「そういう話なら、生徒会に掛け合った方がいいと思うけど」

と、喉まで出かかった言葉を腹の底まで押し戻したのは、俺——^{かけい}寛京太郎の悪癖だった。

^{さお}情に棹させば流される、とは有名な小説の一節だが、しばらく後の俺の心境はまさにそれだ。

川の果てまで流れ流され、河口付近を漂っていた俺の周囲には、同じように流された奴らが集っていた。

最高の読書空間だった部室は、もはや昼休みの教室と変わらない有様だ。

「ええと、今日の活動ですが、カフェテリアの……」

聞き慣れた台詞を、白崎つくみが口にする。

今日もまた、寄り道だらけの活動が始まる——

『大図書館の羊飼』

対応機種：WindowsXP/Vista/7(32/64bit)

シナリオ：榊原拓・内田ヒロユキ・安西秀明 ほか

原画：べっかんこう

購入制限：18歳未満の方はご購入できません

発売時期：未定

オーガスト最新作、鋭意開発中。どうぞご期待ください。

<http://august-soft.com/>



携帯壁紙
お配りしてます



<http://august-soft.com/daito/wallsp/>

画像・文字情報はすべて開発中のもので、変更の可能性があります。

金の鎖と赤い糸

安西 秀明

黄昏時。

不蝕金鎖による秩序が戻った牢獄の娼館街には、客と呼び込みの声が満ちていた。

下層や上層からの客足も戻り、娼館の連中の表情も明るい。

「この街は、こうじゃないとな」

誰にともなくそう口に出し、俺はいつもの見廻りを始めた。

酒場の店主と客の喧嘩、客同士の喧嘩。

娼婦に罵声を浴びせる客、客に啖呵を切る娼婦。

それぞれにちらつと視線を送るが、俺が出るほどのこともなさそうだ。

風鏑との抗争が激しかった頃はこんな喧嘩すらほとんど見なかったことを思うと、隔世の感がある。

雑多な客が集まり、牢獄に金が落ちる。そう考えると、いざこざも娼館街の華なのかもしれない。

「カイルさん」

暗がりにはいるオズが俺に話しかけてきた。

ここ最近には珍しく、深刻そうな表情を見せている。

「どうした。厄介事か」

「いえ……実は折り入ってご相談がありまし

て」

「珍しいな。見廻りが終わってからヴィノレタでいいか？」

「ヴィノレタじゃねえ場所です」

「……わかった」

娼館街の外れにある呑み屋を指定して別れる。オズが、相談などと言ってくるのは珍しい。

しかもヴィノレタを避けたということは……ジーク絡みだろうか。

俺は、きな臭い話でないことを願いながら見廻りの足を速めた。

「すいません、わざわざ」

「いや、構わん」

適当な酒を頼み、それが運ばれてきたところでオズが口を開く。

「実は、ジークさんのことなんです」

やはりな。

俺は視線で頷いて、先を促した。

「風鏑を潰して牢獄もやっとな落ち着いてきたところで……組織の下の方たちの間で、そろそろジークさんにも身を固めてもらいてえ、って話になってましてね」

「……ほう」

物騒な話でなかったことに安堵しつつも、難しい話だとも思う。

「不蝕金鎖は、再び牢獄随一の組織になったわけですが、まだそこいらには風鏑の元幹部をはじめ私らに恨みを持つ連中もいるでしょう」

「……」

「違いない」

「そいつらがうちに対抗できる組織を作れる



とは思っちゃいませんが、ジークさんを直接狙いにすることはあり得るんじゃないかねえかと」

「まあ、そうだな」

「いつか、もしもって事態が起ころんとも限りません。そんな事が起きる前に一つ身を固めてもらって、跡継ぎの一人や二人や三人、作っておいた方がいいんじゃないかねえかって話です」

ガタガタ揺れるテーブルに陶杯を置く。

「子に跡を継がせなくとも、副頭を決めておいて、ジークに何かあったらそいつが跡を継げばいいだろう。お前なんかどうだ、オズ？」

「いえ、自分はそんな器じゃありません」

予想通りの返事を返し、自らの陶杯を一気に空けるオズ。

「それに、そもそも二番手として誰もが納得する奴がいらないんです。誰が副頭になるかでまた組織が割れるくらいなら、いっそ世襲の方がまとまりやすいってもんですよ」

「組織の理屈はわからんが……まあ、オズがそう言うならそうなんだろう」

ジークの信頼が厚いオズだが、組織を引っ張るのはまた別の話らしい。

「で、ジーク本人は納得してるのか」

「……それなんですけどね」

珍しくオズが言い激む。

「ジークさんは……ほら、その、メルトさんがアレですから」

「……あー……」

ヴィノレタの女店主メルトは、今は亡き不蝕金鎖の先代頭が身請けした元娼婦。

そして、ジークや俺は身請け前のメルトに惚れてたという曰く付きの関係だ。

メルトが先代に身請けされると決まったとき

は、ジークは大荒れで朝まで酒を浴びていた。そして……ジークにそれ以来決まった女ができたという話は聞かない。

「だが、メルトはさすがに……なあ」

「ええ。ですから、ジークさんが下手に頑なになっちまわないよう、できれば内密で進められないものかと」

「お前も、苦労するな」

俺はオズの杯に葡萄酒を注ぐ。

「だが、本人に黙ったままで何ができる？」

「方向性だけでも分かればと」

「ジークの女の好みの話か」

「はい。……ここだけの話、実は大商人や貴族から、ウチの娘なんてどうだという話が意外とありやして」

「ほう、その中からジークの好みに合いそうなものを選べれば……ってわけか。できれば未練を振り切るためにも、メルトとは違うタイプだといいな」

「さすがカイクさんは話が早くて助かります」

「ジークも、こんなに頭思いの部下と友人を持って幸せな奴だ」

「幸せになってただけりゃいいんですけど」

「俺たちの頑張り次第だな」

夜更けに集まる時間だけを決め、オズと別れた。

娼館リリウム。

受付の後ろのスペースに、俺たちは集まっていた。

オズの名で集められたのは、リリウムの精鋭

ことクローディア・リサ・アイリス。俺が呼んできたのはティアとエリス。

「なんで私がこんなことしなきゃいけないわけ？」

「牢獄の平和のためだ、エリス」

ぶつくさ言ってる奴もいるが、今日の流れは説明済みだ。

ヴィノレタのカウンターで飲んでるジーク。彼女らが順にその隣へ腰掛け、ジークに言い寄る。

その反応を観察し、ジークの好みを探るといっわけだ。

「じゃあ皆、頼んだぞ」

「もし、ジーク様にそのまま気に入られたら……それでもいいですよよね？」

「……ああ。もちろんだ」

「カイクさん、ヴィノレタでメルトさんのお手伝いをしなくちゃいけないので、わたしから行ってもいいですか？」

「えーっ、ティアちゃんずるいずるいずるいー！」

「最初は有利、最後不利」

「……籤で順番を決めるか」

ティアは最後になった。

「しゅーん……」

「じゃー皆さん、行ってきますっ！」

意外な籤運で、リサから行くことになった。

「ジークさん、ジークさん、ジークさん！」

「なんだ、リサか。相変わらずやかましいな。どっか行ってくれ」

「がーん」

「ジーク。好みのタイプを教えてください」
「メルト」
「メルト以外で」
「メルト」
「言葉を通じないの？」
「メルト」
「もういい」

「不能野郎」
「ん？アリスか。仕事はどうした」
「ジークは不能」
「ああ？」
「メルト以外の女には丸きり役立たず」
「……ああ……そうかもしれねえな……」
「……ってカイクが言ってた」
「そうなんだよ……俺って奴あ……うろうう」

「ジークさん……、最近いつもお一人だと伺っているんですが」
「ああ」
「たまには、私共のような店の者にもお酒などご一緒させていただきませんか……？」
「そうだなあ」
「たまに誰かと飲んでいらっしやる、と伺ってもカイクさんとばかり」
「あいつが一番気楽だな。口も固いし」
「そんなことおっしゃらずに……」

「おう嬢ちゃん。店は手伝わなくていいのか」

「いえ、今日はジークさんにお酒をおつきしようかと」
「酒はつきつつがれつつがいいんだ。嬢ちゃんが飲めねえんじゃ一人で飲んでるのとかわらねえよ」
「そうですね……」
リサに次ぐ早さで撃沈。

最後のティアが、しょんぼりと帰ってきた。各自が持ち帰ってきた話を集め、検討を進める。

「二人きりでの沈黙が嫌じゃない、むしろ心地いい奴」
「長い付き合いに勝るものなし」
「カイクなら言わなくても分かってくれる」
「気楽につきあえて、信頼できるのはカイクくらい」
「一緒に酒が飲める奴」

集まったネタはこんなところだった。

「何か見えてきたか」
「……なんだか話を聞いてると、ジークの一番好みの子ってカイクなんじゃないの」
「えっ、エリスさん、さすがにそれは」
「でもでもでも、あたしもそう思ったよ！」
「私も、ジーク様は言外にそう仰っていると感じましたわ」
「お前らなあ」
「カイクさん、あつしがやったことは無駄だったんですかねえ」
「勘弁してくれ」
俺は手をパンパンと叩き、かまびすしい連中を黙らせる。
「わかった。俺が行って直接聞いてきてやる。お前らはここで待ってろよ」



小細工などせず、最初からそうすれば良かったんだ。
……俺はリリウムを後にして、ヴィノレタへ向かった。

「ジーク」

「カイクか」

「もう相当飲んでるようだな」

「まだ宵の口さ」

俺は目配せをして、メルトにちょっとした間だけ外してもらう。

「なあジーク。そろそろメルトのことは吹っ切って、腰を落ち着けようって気はないのか」

「ん？ お前もオズみたいなこと言いやがって」

「オズも、好みがあるなら叶えたいって言ってたぞ？」

「下手な女よりはカイクの方がマシだ」

「下手な女よりはカイクの方がマシだ」
背後のテーブルで、陶杯を床に落とした音がした。

振り返ると、羽狩りのフィオネ副隊長が手を震わせている。

俺たちの話を聞いていたのか。

「お、お、お前ら……不潔だぞ！」

「いや待て誤解だフィオネ」

「カイクがそんな男だとは知らなかった……」

「俺だって知らん！」

陶杯が砕けた音を聞いてか、ヴィノレタの扉からティアやエリスや三人娘がなだれこんで

きた。

聞き耳を立てていたようだ。

「ほら、私の言ったとおりだったじゃない」

「カイクさん……本当なんですか？」

「んなわけないだろうが！！」

皆を席に着かせ、落ち着かせたところで、ジークがゆっくりと語り出す。

「お前ら馬鹿か。ちゃんと考えてるに決まってるだろう？」

「頭、安心しやした」

「ああ、組織を預かる身としては当然だ」

皆が胸をなで下ろす。

「ま、良かった。で、ジークはどうするつもりなんだ？」

「カイクのために用意したものがあ」

ジークが、足元の鞆から女物の服を出す。

俺のために？

「一気に顔から血の気が引いた。」

「みんな本気で心配してるのに、冗談でごまかすんじゃないの！」

「おごっ！」

カウンターの中に戻ってきたメルトが、ジークの頭をフライパンで殴る。

「いたたた……今日はメルトが身請けされた記念日だな。これをプレゼントに持ってきたんだが受け取ってくれないんだ」

……周囲が皆、しばらくは不蝕金鎖の跡取りなど望めないことを思い知って、溜め息をついた。

END



べっかんこう (以下、べ) : つい最近、10周年記念ボーカルCDのブックレット用に相当なボリュームの対談をしたような気もしますが、また対談の時間がやってきました。

榊原拓 (以下、榊) : なんか対談大好きな人みたいですね。

べ: ですね(笑)

榊: まずは『大図書館の羊飼』の開発状況について、でしょうか。

べ: 原画は立ち絵をもりもり描いてます。メインヒロイン以外のキャラももう少ししたらお見せできると思うので楽しみに。

榊: シナリオは、舞台とキャラの細かい設定詰めと、ストーリーで使うイベントのネタ出しと、あとは具体的なプロットを練り込んでいます。新しい舞台、新しいキャラは、やっぱり一から作らなくてはいけないので大変です。

べ: キャラクターデザインも何度もリテイクを繰り返して徐々に固めていっています。試行錯誤なのは同じですよ。表情とか。ポーズとか。

榊: こちらも、まだキャラをライター自身も完全には掴み切れていないので、なかなか速度が出ません。

べ: 実際本当の意味でキャラを掴めるのってマスターアップの頃だったりしますよね。

榊: 確かに毎回そうです(笑) キャラをしっかり掴んでれば、悲惨なシチュエーションとか逆に極楽のようなシチュにキャラを放り込んだときに、どう反応するかが簡単に想像できるんです。でも、今はまだそこまで行ってません。

べ: サブキャラはまだデザインや色が確定してないので、それこそキャラを掴むのはまだまだ先になりそうです。

榊: あと、今回は10周年記念CDについて語っておかないと。

べ: CDのジャケットでは、ディフォルメですが過去作のヒロインを描きましたよ。

榊: おー、レティとか優希とか久し振りだったんじゃないですか?

べ: 実はその前にオンリーイベント用の色紙を描いてるのでそんなでもなかったり(笑)

榊: あ、そうでしたね。

べ: でもやっぱりほには以前のキャラは描く機会がないですね。

榊: それは仕方ない面もありますが、機会があれば描いてほしいというユーザーさんもいらっしゃるでしょう。……でも、仮に100本作ったら、記念CDのジャケットにはキャラ100人描かなきゃいけないですね。どうしましょう?

べ: それ何枚組のCDになるんだろう? まあ本当に100本作ったら100人描きます(笑)

榊: 記念CDは聴きました?

べ: ええ。特に今回のCD合わせで作ったメドレーは良かったです。

榊: 二人で「えーメドレーにあの曲入ってないの?」って言ったらね監督が入れてくれたりもしましたね。

べ: よかったよかった。あと、全曲通して聴くとけっこうぐっと来ますよ。

榊: 10年とは言え、私たちの開発の全歴史ですから!

べ: よろしければ、是非お聞き下さい!

スナップ対談 第31回 べっかんこう & 榊原拓



POSTSCRIPT - あとがき

オフィシャルハンドブックをお読み頂き、ありがとうございました。お楽しみ頂けましたでしょうか。

さて、2011年10月1日でオーガストのオフィシャルサイトが開設10年となり、2012年2月22日には、オーガスト第一作の『バイナリ・ポット』発売からも10年を迎えます。その記念として、これまでの作品のボーカルコレクション『AUGUST 10th MEMORIAL』を作成致しました。限定版にはLPレコードを付けたり、ブックレットには初期の頃のオーガストについての対談を載せるなど、(私たちにしでは珍しく)遊び心のある企画となっています。もしよろしければ、お手にとって頂ければと思います。

新作『大図書館の羊飼』の開発は今のところ順調に進んでいます。

オフィシャルウェブサイトや雑誌等でも情報を公開し始めましたので、こちらもご注目頂ければ幸いです。

それでは、今回はこの辺で。

今後ともオーガスト/ARIAをよろしく願い致します。

2011年末 オーガスト/ARIAスタッフ一同



オーガストオフィシャルハンドブック
2012年新春号

※禁無断転載・無断複製

最新情報満載!
オフィシャルホームページにぜひお越し下さい!

<http://august-soft.com/>
<http://aria-soft.com/>

大図書館の羊飼!
a good librarian like a good shepherd



オーガストオフィシャルハンドブック
2012年新春号

